

病害虫発生予察注意報(第1号)

令和2年7月15日
神奈川県農業技術センター

病害虫名：ハスモンヨトウ

作物名：野菜類、花き類

1 発生地域：県内全域

2 発生量：多

3 注意報発令の根拠

- (1) 当センター病害虫防除部で県内に設置しているフェロモントラップへの雄成虫誘殺数は、横浜市と三浦市では6月第6半旬から、伊勢原市では4月第1半旬の調査開始から平年を上回り、7月第1半旬から急激に増加している(図1～3参照)。7月第1半旬の雄成虫誘殺数は、横浜市、三浦市のフェロモントラップでは過去30年間で最も多く、伊勢原市のフェロモントラップでもトラップ設置以来12年間で最も多い。
- (2) 当センター生産環境部および三浦半島地区事務所が所内に設置しているフェロモントラップへの雄成虫誘殺数も7月第1半旬から急激に増加している。
- (3) 向こう1か月の気象予報によると、気温は平年並か高いと予想され、次世代幼虫の発生に好適な条件が続くと予想される。

4 防除対策

- (1) 中～老齢幼虫に対する薬剤の防除効果は低い場合が多いので、体長1cm位までの若齢幼虫を対象に早期防除に努める(写真参照)。
- (2) 若齢幼虫は葉裏に群生していることが多いので、薬剤散布は薬剤が葉裏や株元にも届くよう丁寧に行う。
- (3) 薬剤抵抗性を発達させないため、同じ系統の薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。なお、防除の際は必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守する。

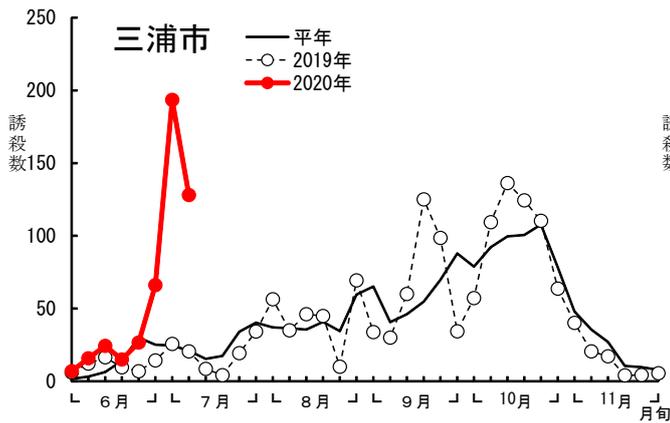


図1 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウ雄成虫誘殺数(三浦市)

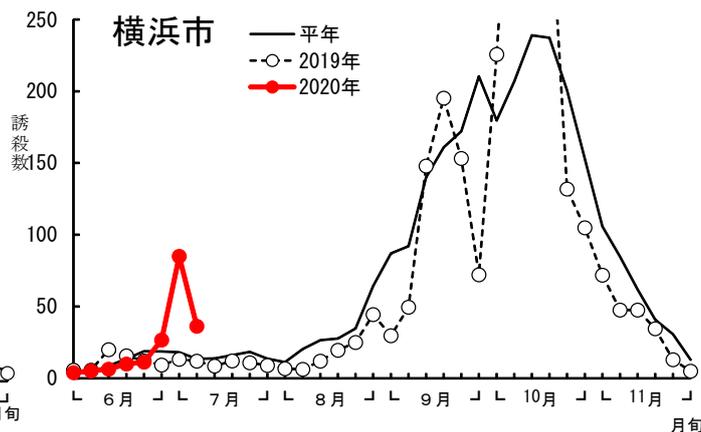


図2 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウ雄成虫誘殺数(横浜市)

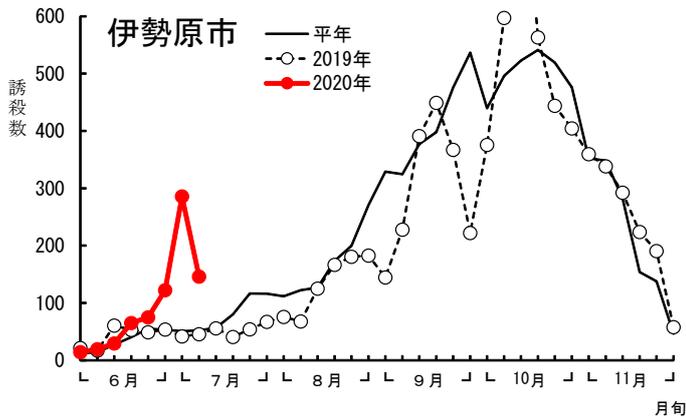


図3 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウ雄成虫誘殺数(伊勢原市)



(写真：ハスモンヨトウ若齢幼虫)

5 防除薬剤

各種作物の防除薬剤例は下表のとおり。農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守すること。(○は登録有り。登録内容は2020年7月14日現在)

薬剤名	IRAC コード	農薬登録の有無					
		トマト	なす	いちご	キャベツ	ブロッコリー	さといも
ディアナSC	5	○	○	○	○	○	○
アニキ乳剤	6	○	○	○	○	○	○
アフーム乳剤	6		○	○	○	○	
コテツフロアブル	13		○	○	○	○	○
カスケード乳剤	15	○		○	○	○	
マッチ乳剤	15	○		○	○	○	
ファルコンフロアブル	18	○	○	○	○	○	
トルネードエースDF	22A	○	○	○	○		○
アクセルフロアブル	22B	○	○		○	○	○
フェニックス顆粒水和剤	28	○	○	○	○	○	○
プレバゾンフロアブル5	28		○	○	○	○	○
BT剤	11A	野菜類のハスモンヨトウで登録のあるものとして、エコマスターBT、フローバックDF、サブリーナフロアブル、ゼンターリ顆粒水和剤、バシレックス水和剤など*					

* さといもについて、いも類又はさといもでの登録があるときは、その登録内容にしたがうこと。

神奈川県農業技術センター
病害虫防除部

〒259-1204 平塚市上吉沢1617

TEL 0463-58-0333

FAX 0463-59-7411

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

